

会議記録（要点筆記）

委員会名		秦野市子ども・子育て会議（平成26年度 第7回）	
日時	平成27年1月29日（木） 15：00～16：20	場所	秦野市役所3階 3A会議室
出席者	<p>[委員氏名] [所属団体等]</p> <p>小林正稔：神奈川県立保健福祉大学教授（会長）</p> <p>石橋由里子：秦野市幼稚園PTA連絡協議会</p> <p>今井啓子：株式会社日立製作ITプラットフォーム事業部</p> <p>小野寺智美：秦野市PTA連絡協議会</p> <p>大澤一之：民間幼稚園長</p> <p>草山充：秦野市民間保育園園長会</p> <p>串田祐基：民間認定保育施設長</p> <p>小林徳博：元小学校長 二宮町教育委員長（副会長）</p> <p>佐々木陽一：株式会社PHP研究所公共経営支援センター コンサルタント</p> <p>清水幸代：市民委員</p> <p>妹尾洋之：神奈川県平塚児童相談所子ども相談課長</p> <p>内藤剛彦：秦野市医師会</p> <p>矢野博子：市民委員</p> <p>[欠席]</p> <p>多田佐智子：秦野市保育主任の会</p> <p>府川優樹：民間学童保育施設長</p>		
[事務局]		[庶務担当（こども健康部保育課）]	
こども健康部 健康子育て課長		保育課子育て支援施策担当課長	
こども健康部 保育課長		子育て支援施策担当主幹	
教育部 教育総務課長			
議事内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業計画の策定について</p> <p>(2) 保育料について</p> <p>(3) 新制度の施行に向けた各種取り扱いについて</p> <p>(4) その他</p> <p>3. 閉会</p>		

配付資料	<p>○事前配付資料 秦野市子ども・子育て支援事業計画（案）</p> <p>○当日配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第8回子ども・子育て会議後の子ども・子育て支援事業計画（素案）の修正箇所一覧 ・資料2 新制度に伴う利用者負担の考え方 ・資料3 秦野市における保育の必要量（子ども・子育て支援法施行規則第4条）
------	--

[開会]

議題1 「子ども・子育て支援事業計画の策定について」事務局から説明をお願いする。

○事務局

前回10月30日に開催した会議から3か月が経過した。その間、11月15日から1カ月間パブリックコメントを実施した。その間、市議員や関連各課にご意見を伺い、その対応と修正案を今回提示する。また、利用者負担と新制度施行が4月1日に決定しているの、様々な取組みについて報告させていただき、ご意見を頂きたい。

新制度の利用者負担や公定価格については、消費税増税の先送りがあり、国の作業が大幅に遅れている。施行は4月1日と決定されており、我々も3月に保育料の条例を議会に提案する事も含めて遅れに焦慮する所であるが、子育て支援事業計画については関係各課、パブリックコメントからの修正について説明させていただく。

1. 議事（1）子ども・子育て支援事業計画の策定について

○計画案の修正箇所についての事務局説明

（事前配布の秦野市子ども・子育て支援事業計画（案）および、当日配布資料1に従って修正箇所を説明した。）

○委員

前回の資料では施策の担当者名を削るということを伺い、今回の資料1で担当課名が保留とされているが、これはどういったことか。

○事務局

機構改革を予定しており、現在の課がそのまま事業を担当するか分からないため、担当課名の表記をなくすか、または名称を変えることを検討し、保留としている。

○会長

この件については、修正でご了承を得たということで議題2に移る。

2. 議事（2）新制度の施行に向けた各種取り扱いについて

○事務局説明

○委員

保育料については、軽減措置を取っていくか。

○事務局

秦野市の保育料は、現在国の基準に比べ4割軽減している。これは県内で逗子市に次いで2番目に安い保育料となっており、今後も同様の軽減とする。

○会長

他に意見がない場合は議題3に移る。

3. 議事 (3) 保育の必要量について

○秦野市における保育の必要量について事務局説明。

○委員

市町村の判断により保育の必要量を定めることが出来るということは、秦野市の特徴を踏まえることが出来る、重要な観点だと考えるが、設定の仕方について他市より秀でているのか、秦野市の特徴が表れているのか。あるいは一般的なものなのか。

○事務局

実務は保育の長い歴史の中で行われてきており、経験等を勘案しているが、標準的な判断となる。

○委員

市町村の判断といいながら、市によって大きな差異はないということか。例えば、資料の網掛けの部分では、秦野市独特の事例を汲むことはできないということか。そうしたことを何か上乘せできれば、秦野市としてアピールできるのかと思ったので、発言させていただいた。

○会長

その点を考える場合、育児休業中の保育を短時間とする辺りでしか、考えられないが就労支援として、このままで良いか。

○事務局

様々な考え方があると思う。育児休業中の保育については、子育てが大変なことは理解しているが、家庭での保育が原則であることを勘案して、短時間保育とした。

○委員

“その他必要に応じて定める”とあるので、対応できるといえば対応できるかと思う。

○会長

いまだに就業で時短も難しく、妊娠して子どもができる仕事を止めるのがルールのように通例が残っている場合もある。権利だからと残す場合もあるが、育児休

業を取得しても、就学までは時短で働くか急いで働くのか、実際には保育時間が8時間あれば対応はできると思うが、イメージを含めて広げておくのも一つの手法かとは思ふ。

○委員

育児休業中と短時間就労中の話では、育児休業中については家庭で保育をしているので、標準時間にすることについては疑問である。

○事務局

育児休業の場合は、完全に就労から離れているので短時間保育で問題ないと思う。

○会長

保育の必要度のパターンについては、資料の形で問題ないか。公平性が確保されているということであれば、この形で進める。

○委員

保育の必要度については、詳細がオープンになっているのか。

○事務局

指数化してあるが開示はしていない。

○委員

表に当てはめると第3希望になってしまうなどが、保護者自身で納得いくようになっていた方がよい。

○事務局

新制度においては、施設情報等も含めて開示することになっており、そうしたものも開示の対象になると思う。

○委員

出来るだけオープンになっていた方がよいのでお願いしたい。

○会長

申請の仕方によって、ポイントが上がるテクニックが先行するのが心配である。また、感情的な部分を斟酌できなくなるので、トラブルになる可能性も予測できる。

○委員

計画は4月からということであるが、コンシェルジュについては昨年の広報にも掲載されてここ数か月稼働していると思うが、問い合わせや相談等、どのように動き始めたかお聞かせいただきたい。

○事務局

コンシェルジュは10月から配置させていただいている。通常の保育園の申請の時期に相談を受けるが、これに加えて一時保育の利用についての紹介をさせて頂いている。待機児童になってしまった等の相談もあるが、一時保育の利用や認可外保育所のご案内など、月に6～7件の相談を受けている。

○委員

自分が親であったら、保育園を迷う際、自分の子供がこのような特徴なので、どの保育園が合っているかといった質問をするかと思う。そうした突っ込んだ質問は今まであるか。

○事務局

どこにどういった保育園があるという案内をするが、地理的な状況もあるので、まず見学に行く相談をさせていただいている。

○会長

偶然知人から預け先についての相談をされた際、市役所に保育コンシェルジュがあると伝えたところ、すぐに対応してもらえたと聞いた。1件だけではあるが、事例として報告させていただいた。“保育課に相談”というよりも“コンシェルジュに相談”と言う方が柔らかくてよい。他にご意見がなければ議事4に移る。

4. 議事（4）その他

○事務局

当初子ども・子育て会議が7回で終わる予定であったが、27年度の子ども・子育て支援事業施行に向けて、認可事業の利用定員の設定がある。小規模保育や認可されている保育所、認可外から認可保育所へ移行する保育所の認可があって利用定員の検討として、もう1回子ども・子育て会議にお付き合い頂きたい。

○会長

国の作業が遅れていることと、当初に比べて内容が二転三転している。最初の頃は平成27年度から子育て環境が良くなるとして動きが活発であったが、今では動きがない状態である。少なくとも今までと違ったものになっていけたらと思う。平成27年からの事業がスムーズに進むように、3月の議会が終わってからで恐縮であるが、ご協力をお願いしたい。

○委員

計画について、秦野市で独自に具体的な施策を立案したり、実施していく事が特に重要である。この市ではどのように考えているか。計画の最後に、計画の推進に向けて3年で見直す仕組みが記載されているが、このやり方ではあまり推進していかないだろう。具体的に施策の立案に向かうような仕組みを、是非作っていただきたい。

○事務局

子ども・子育て会議については、平成26年度で終了するわけではなく、平成27年度も現在の委員に引き続きお願いしたいと考えている。その中で、当初の計画を進めて行った中で進行状況の把握を行いながら、変わるべきところは変え、新しく施策として市で独自に持っているものも含め、ご意見を伺う形で進めて行きたいと考

えている。

○会長

本来、計画の中でがっちり固めるのが流れであると思うが、予算的な部分も含めてそこまでできる要素がない。大枠だけ決まっている状況なので、その中に流れを見ながら実施できるところから進めて行く。次世代の流れを考えると、会議室だけでなく、実際の現場の声や肌で感じている所を検討しながら進めて来たので、こうした手法でも進めていきたいと考えている。

以上を持って、秦野市第9回子ども・子育て会議を終了させていただく。長時間ありがとうございました。

[閉会]